

県内3市5町が
連携する取組を
「継続」から「飛躍」へ

とちぎパブトラネット 18年間の取組み ～次世代の公共交通利活用に向けて～

県央地域公共交通利活用促進協議会 事務局（宇都宮市 総合政策部 交通政策課）

栃木県は、全国的に見ても「くるま社会」と言える状況で、赤字路線に対する行政負担は増加し続けているなど、栃木県の公共交通は苦境に立たされていた。

車は栃木県民にとって重要な交通手段の一つだが、交通渋滞の緩和や環境問題への対応、高齢社会における交通手段の確保など、くるま社会における課題が存在することから、県民の公共交通に対する意識の転換・行動の変容が求められており、その中で当協議会が設立された。



県央地域公共交通利活用促進協議会	
設立時期	平成17年度（現在まで18年間の活動継続）
設立目的	県央地域の公共交通の利便性の向上と利用促進のため
構成委員	県央地域の3市5町（宇都宮市、鹿沼市、真岡市、益子町、茂木町、市貝町、芳賀町、高根沢町）の住民代表、交通事業者、学識経験者、行政

18年間に渡る継続的な活動 “次世代の公共交通”へ

当協議会では、発足から現在まで18年間、県央地域の公共交通の利便性の向上と利用促進のため、3市5町の住民代表、交通事業者、学識経験者及び行政が連携して、現在の公共交通が抱える課題への対応策や、高齢化や人口減少などの社会的な環境変化の中でも誰もが移動しやすい将来的な公共交通の充実にに向けた方策を検討しているほか、利用促進に向けた広報啓発活動や、市民町民への意識啓発などに取り組んでおり、近年は、特に宇都宮市・芳賀町が進めるLRT（次世代型路面電車システム）導入の本格化に合わせ、LRTの整備効果を県央地域内にも広げる取組等について検討するなど、県央地域として“次世代の公共交通”についても関連した議論を重ねてきた。

年複数回に渡る協議会や事務局会議、ワークショップを行う中で、公共交通についての見解を深めるとともに、先進事例を視察し、各市町の施策の参考とするなど、委員が連携して広域的かつ長期的な視点で検討を進めているところであり、市町民に対しては、各市町の観光モデルコースの紹介に加え、SNSやHP、啓発グッズ等を活用して、公共交通利用促進に向けた情報発信を着実に実施してきた。

これらの活動の成果として…



長年減少傾向のままだった公共交通（鉄道や乗合バス、地域内交通等）利用者数が、**増加の兆しが見られる**までの結果に至った。

毎年度実施事業



▲ワークショップ
事業の詳細を議論



▲学校MM
小学生に対し、
乗り方教室を実施



▲先進事例視察
（福島県会津若松市）

協議会のPRや啓発グッズ

▼県央地域アクセスマップ



公共交通を利用して県央地域を観光する例としてモデルコースを作成し、ポスター及びパンフレット形式で配布

▼おでかけマップの作成



公共交通を利用して県央地域の観光を楽しむルートや施設を紹介

▼エコバック



宇都宮市内の学生に協力依頼し、オリジナルデザインを作成

▼ふせん



当協議会のみならず、宇都宮市独自の交通系ICカード「totra」のPRも

～今後は「継続」から「飛躍」へ～

近年は、宇都宮市・芳賀町が進めるLRT導入の本格化に合わせ、LRTの整備効果を県央地域内にも広げる取組等についても検討。全国初の取組である全線新設型LRTの開業のタイミングに合わせ、当協議会が長年に渡り議論・活動を重ねてきた公共交通利活用促進策を**県央地域のみならず、周辺自治体にも波及させるなど、活動を「継続」から「飛躍」させていく。**